

私が繋げたい下田

静岡県立下田高等学校 二年 杉田柚果

下田高校に進学してから、一日のほとんどの時間を下田で過ごすようになった。

下田は私の住むところよりも交通手段があるし飲食店が多いから、放課後に友達とご飯を食べに行けることが嬉しい。そして何より、人の心が温かいところが素敵だと思う。

部活の探究活動で下田のあちこちを回り、現在進行形で進む問題に対して高校生の私たちだからこそできるやり方は何か模索、アプローチを繰り返しながら、目まぐるしく活動している間に気づいたことがある。それは、私たちが関わった下田に住む大人達はとても親切で、私たちの活動に真摯に向き合って一緒に頑張ってくれる、とても情に厚い人たちということ。

高校生の私たちにとって、大人という存在は近いようで遠く、圧倒的に力の差を感じることがあり、マイナスなイメージで大きな存在だった。でも下田の人はそんなイメージを覆すように、私たちに寄り添い、自分の力を簡単に貸してくれた。

部活でジビエ肉について探究した時には、下大沢地区の方々が獣によって人間の生活エリアが侵されていることや、息を呑むほど豊かで心奪われる下田の森の環境や生物の生態系が朽ちる程の被害を丁寧に教えてくれた。教えてくれるだけでなく、イノシシの牙を譲ってくださり、獣の脅威を間近に感じる体験をさせてくれた。その甲斐もあってか、探究の成果を発表するコンテストでは爪痕を残すことができ、部活の一年生が優勝、最優秀賞を受賞することが出来た。私はこの名誉ある賞を、一年生が長期に及ぶ努力や獣害問題に奮闘した日々の賜物だと思うけれど、それだけではなく下大沢の区長さんや住民の皆さん、大沢WANA会の方々の献身的な協力によって得ることができた賞だと思う。そのほかにもジビエ肉を私たちが調理して提供するジビエ食堂には必ずお客様として参加して私たちの成果を見届けてくれたり、ジビエ料理コンテストで優勝したときには、お祝いで果物を学校に届けてくれたりと絶えず親切にしてくれている。

そんな経験をして私は下田の土地や人の良さに心惹かれ、もっといろいろな人に知ってもらいたい、自分を大きく成長させてくれた下田に貢献できることを何かやりたいと、いつしか思うようになった。

それから私は下田 MIRAI カレッジプロジェクトに積極的に参加して、三菱地所で働く方々と共に、学生視点から下田の未来について考えながら、私たち高校生だからこそできる持続的な街づくりに日々奮闘している。

私はこのプロジェクトで、内側に秘めている下田の魅力や人々の温かさをこの伊豆を飛び出して世界中の人に広げ、下田に行ってみたい、下田に住みたい、下田はいいところだな。といつまでも思ってもらえるような街づくりをしたいと思う。

そして大人になって下田に帰ってきた時、「ここは苦しいことも楽しいことも青春も、私の全てをかけた場所だ」と胸を張って言えるように、また、誰かの大好きな場所となり、温

かい人と人との輪が一生続きますように。下田の未来を考えて何か行動を起こせる人を応援できる人や環境がずっとありますように。と願い、希望と夢が溢れていつまでも発展し続ける未来の下田を私がつくり、下田の人々に恩返しをしたいと思っている。